



武南高等学校進路通信

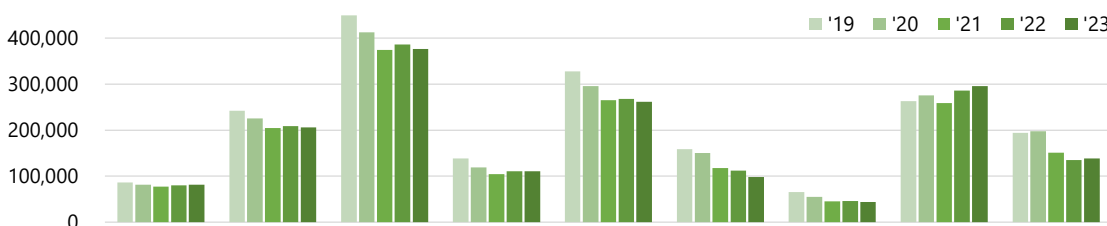
第8号

進路指導部

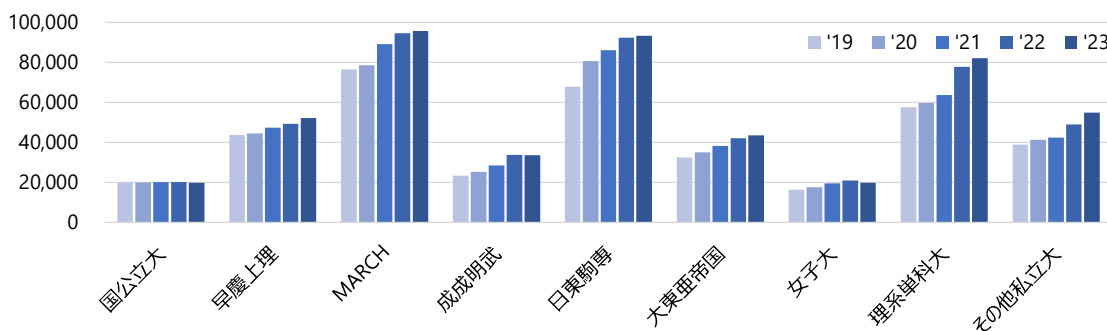
【全国的な入試動向 ～チャレンジが報われやすい時代～】

5カ年における一般選抜の志願者数と合格者数の全国的な推移（ベネッセ）です。18歳人口の減少などにより、志願者の減少傾向が目立つ一方で合格者数が増加傾向にあります。首都圏の定員厳格化の実質的な緩和、各大学の定員確保の動きが顕著になっていることが考えられます。3年模試成績との関係のデータをみても、この夏でしっかりと基礎学力を身につけ、最後まで「チャレンジ」することでチャンスが広がってくるということがいえそうです。弱気になって、安易に志望校を判断するのではなく、本当に行きたいところに挑戦しようという気持ちと、「行動」が大切です。現に、昨年一昨年と武南高校の先輩たちも「チャレンジ」により多くの合格を勝ち取っています。

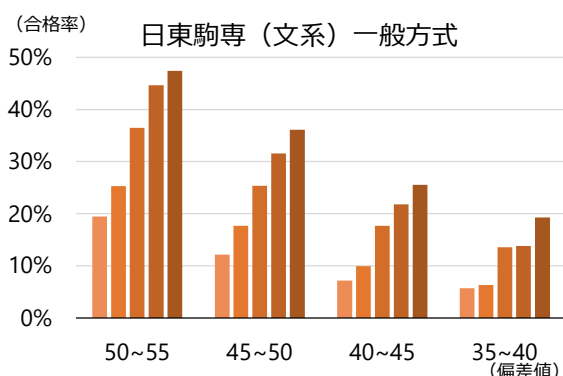
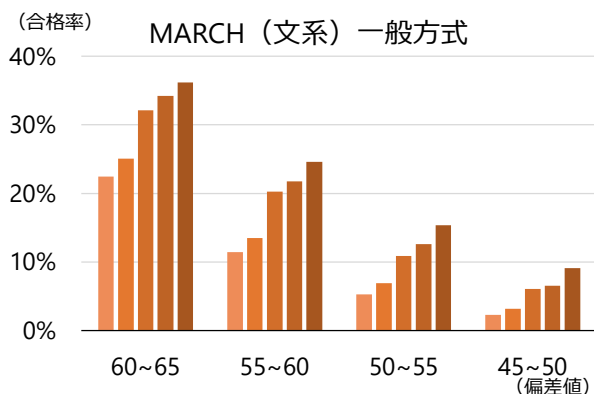
【志願者の推移】2019年～2023年（各カテゴリー左側から2019年）

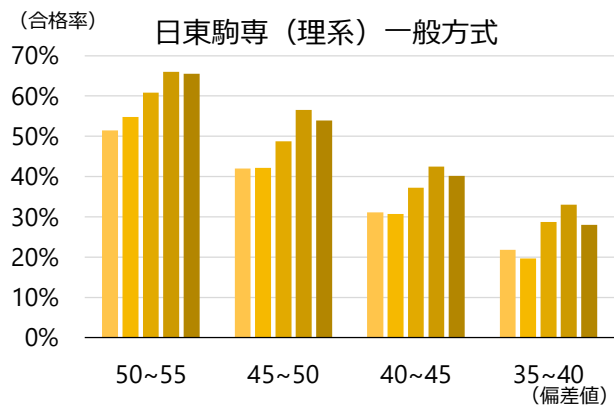
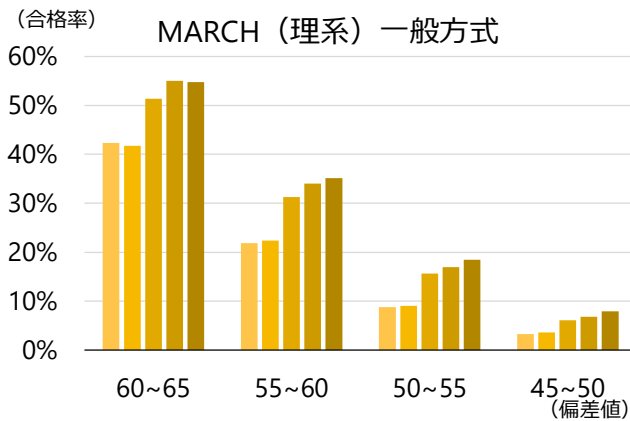


【合格者の推移】2019年～2023年（各カテゴリー左側から2019年）



【3年9月共通テスト模試と合格率】 2019年～2023年（各カテゴリー左側から2019年）





【自分の挑む入試方式についての心構えをチェック】

3年生を中心に、すでに自分がチャレンジする入試方式を決めているかと思います。夏休みに入る前に確認してほしいこととして、その方式において大切なことをチェックリストとして以下にあげておきます。

「年内入試=安全な入試」では決してありません。むしろ、その大学学部学科のために特別に準備すること多い入試です。そして、その準備に「客観的な答え」が明確にあるものでもありません。その大学ではなくてはいけない「自分なりの」志望動機や決意が必要なのです。

1、2年生は入試方式の決定に急ぐのではなく、どの方式を選択しても対応できるように確かな基礎学力の養成と進路探索を行っていきましょう。

周りに流されずにこの夏休みを充実したものにしましょう。

一般選抜

- ✓ 教科学力 (これさえ身につければいくらでもチャレンジ可能)
- ✓ 大学進学後の目標をこれから見つけたい
- ✓ 試験対策にこれから本腰を入れる予定
- ✓ 多科目型や高得点採用を取り入れる入試もあり、早くから科目を絞った対策は合格の可能性を狭める
- ✓ 英語資格のスコアを持っていると試験に有利に臨めるケースが増えている

総合型・学校推薦型選抜

- ✓ 明確な「自分だけの」志望理由があること
- ✓ 1年次から日常学習を含めてコツコツ取り組んでいる
- ✓ 志望大学・学部・学科の“マイストーリー”を言語化 (自分の言葉ではない場合すぐに見抜かれる)
- ✓ 試験に向けた準備を既に進められている
- ✓ 難関大の公募制入試では、出願資格に高いハードルが設けられていることが多いが、しっかりとアピールできれば合格可能性が広がる。
- ✓ 英語資格が出願基準になっていることがある。